

第11号

コウノトリ翔る郷

たじま 夢つうしん



第3期夢テーブル委員会活動を振り返って

…次期への絆…

但馬夢テーブル委員会委員長 辻本 康次



今期は、「郷帰り」を主眼に、地域ビジョン・第1期、第2期の活動を継承しながら但馬地域への活動の更なる拡がりを模索しました。102名の委員が11のグループに分かれ、独自に、時には連携を図りながら熱心にテーマに取り組み一定の成果が上がったと思います。特筆すべきは、「但馬の近代化遺産の調査・マップづくり」のグループです。香美町小代区水間の矢田川に架かる矢田川橋のルートが洲本市内に架橋した最初の鋼鉄橋「塩屋橋」である可能性が高いことを発見しました。このような経緯から兵庫県として「但馬ヘリテージマップ作成」に取り組みこととなりました。「但馬の川と峠の物語」グループは、峠や川とそれに関わる歴史、人々の暮らしなどについて現地調査を実施し毎回報告書を纏めています。「ふるさと音楽祭たじまのうたまつり」グループは、委員会内に留まらず多くの団体と連携して活動の輪を広げました。「森・川・海の再生」グループは、子どもたちを巻き込み、手作りカヌーで川下りをしました。

但馬地域ビジョンのテーマ『コウノトリ翔る郷』を実現するには、「人と自然の共生」は勿論、環境づくりに携わる「人と人との共生」が必須条件です。「自然と真剣に向かい合い」「人も自然も機嫌よく住める但馬」を目指して夢テーブル委員会の活動が固い絆で連鎖することを願って止みません。

四年間、多くの人と出会えたことは、私の財産です。委員・県民局の皆さんに衷心より感謝いたします。

但馬 夢テーブル委員 第4期 を募集します!

夢テーブル委員会って何?

21世紀兵庫長期ビジョンに基づく「但馬地域ビジョン」を地域住民の参画と協働により実現していくため、但馬県民局に設置された委員会

県民行動プログラム?

「自分たちですぐにできること」「行政の支援を得ながら自分たちでできること」「行政と密に連携しながら共にできること」などの行動を中心に、但馬夢テーブル委員会を中心として、多くの地域住民の参画により行動を展開するための「宣言」「手引き」

但馬夢テーブル委員(会)は、21世紀の但馬づくりの指針である「但馬地域ビジョン」の実現をめざし、委員の方々がグループを組み、自ら設定したテーマの「県民行動プログラム」について、自主的な実践活動に取り組むことを目的としたものです。

今回、これまで6年間に31のテーマで県民行動プログラムが展開されてきたなか、地域に根ざす活動をさらに発展させるため、第4期委員を募集いたします。

◆応募資格 (次の要件をすべて満たす方)

- 満18歳以上(平成19年4月1日現在)の方
- 但馬地域において地域づくりの実践活動を行っている方又はその意欲のある方
- 地方公務員法第16条各号(応募申込書参照)のいずれにも該当しない方
- 兵庫県議会議員及び兵庫県の常勤職員(教育公務員特例法の適用を受けるものを除く)でない方

※なお、但馬地域内の居住は問いません。また、第3期委員の応募も可能です。(ただし、1期~3期の間に4年務められた方は、応募できませんのでご了承願います。)

- ◆募集人員 100名程度
- ◆委員の任期 2年
- ◆委員の報酬等 無報酬(ただし、一定の場合の旅費は支給) ボランティア保険に加入(掛け金は県が負担)
- ◆応募の方法 応募申込書に必要事項を記入の上、下記応募先に、持参、郵送、FAX、電子メールのいずれかの方法で提出してください。
- ◆選考 応募いただいた申込書の記載内容により、審査会を開催し、公正な選考を行います。
- ◆応募の締切 平成19年2月28日(水)【消印有効】
- ◆応募先・問い合わせ先 但馬県民局企画調整部地域ビジョン課
〒668-0025 豊岡市幸町7-11 TEL (0796) 26-3615 FAX (0796) 24-7490
電子メール tajimakk@pref.hyogo.jp
- ◆結果のお知らせ 平成19年3月下旬までに、応募者全員に結果を文書でお知らせする予定です。



川と峠の調査の様子



近代化遺産の調査の様子

但馬地域ビジョンについては、ホームページ<http://web.pref.hyogo.jp/area/tajima/vision.html> で公開中です。

自立の郷

次世代会議—但馬の星づくり

但馬を訪れた人々の多くは素晴らしい環境に恵まれいいところと言われる。しかし、そこに住んでいる人からは、ネガティブな発言を聞くことが多い。

そのことにギャップを感じることもある。確かに恵まれた自然があり、多くの魅力ある人々に出会う。

これは、情報がうまく機能しないため、一部のネガティブな情報だけが独り歩きしてしまうことも一つの要因ではないでしょうか。

裏を返せば、機能していないことにより多くの可能性が秘められていることになる。

そこで、「次世代会議」グループでは、世代や業種に関係なくネットワークを広げ、情報交換し、新たな活性化を探ってきている。人と人が結びつくことにより、既存のものから新たな商品が誕生したりする。そこからまた、新たなネットワークが広がっていく。



街の活性化は人から始まることに着目し活動してきた。

(写真は、グループが発行する「たじまの星通信」)

〔西垣 義嗣〕

但馬まちづくりセンターの創設

大きな看板を掲げてスタートした今期但馬夢テーブルの活動もあつという間に2年間が経とうとしている。行政ではなく、住民が主体となって自分たちがこうありたい、こういうものがほしいという思いを形にする仕組みとして但馬まちづくりセンターという構想を立てた。

メンバーは10人程度でめいめいができる限り準備してフォーラム等を実施し、その反省も行った。必ずしも思いどおりの活動はできなかったかもしれないが、それでも自分たちの思いを実際の活動で進めるといふ一連の経緯はおそらく初めてのことだったと思う。もうすぐ2年間の活動を終えるが、取り組んだ課題は決してこれで終わりというのではなく、今後も何らかの形で取り組んでいかねばならない。



新しい仲間を加えて来年度以降も引き継がれてゆくことを願っている。

〔梅谷 光太郎〕

賑わいの郷

但馬の近代化遺産の調査・マップづくり

毎月1回の見学会も、16回を数え、但馬において近代化遺産と呼ばれる建築物はほぼ全て見学を終えました。ここ数回の見学会は土木構築物を中心に見学しています。堰堤、護岸、橋。いつも見慣れた構築物ですが、少し見方を変えるだけで貴重な構築物だということを知りました。中でも香美町小代地区に残っていた「矢田川橋」は、大正7年にできた兵庫県で一番古い鋼鉄橋の一部とわかったことはメンバー一同、2年間の活動の大きな成果だと喜んでいました。また、養父市小城にある旧長島家の裏山にある堰堤も自然石をそのまま積み上げた古いもので、大正期から昭和初期にかけて造られたものとわかりました。このように近代化遺産として文化財としての構築物の見かたが確立されていない現在、このような古い構築物が但馬の中にたくさん埋もれていると考えられます。今後は、それらを少しずつ発見しながら、また、今まで2年間に知り得た多くの情報を但馬内外の人に知らせ、伝えてゆく活動につなげたいと思います。



〔中尾 康彦〕

但馬の観光による活性化・多彩な交流促進

現在、但馬は1市18町から3市2町への合併により、新体制のもとで観光施策の充実を図っているところである。

さて、これからの但馬の展望については、地場産業、特産物と観光をセットしたなかで交流人の増加を図っていくことが重要であると思う。

そして但馬づくり、まちづくりは、これまで行政に依存しがちであったが、地方の時代に移行するなかで私たち住民が主人公となり、住民主体のまちづくりこそ地域の発展の要であると考え、当グループでは観光モデルコースの現地調査を行った。



幸い但馬は今、コウノトリ放鳥で全国に発信されており、素晴らしい自然環境が評価されている。

また但馬の人は心暖かいと言われ、そのことを誇りに思っている。これからも但馬を訪れる人々に但馬の良さを味わってもらい、そして感銘を与える但馬づくりに努めなければならない。

〔神谷 宗光〕

但馬の川と峠の物語

峠開通記念の碑(工事従事者の心意気)

県道養父波賀線は播州と但馬を結ぶ峠で、麓との標高差は大屋側が350m、波賀側が100mとトンネルの造りにくい峠である。

昭和44年に陸上自衛隊が2ヶ年かけて建設した峠の頂上に記念碑が建っている。道路に面した方は「若杉峠開通記念の碑」として、路線名と年月日、文字の揮毫者金井元彦知事の名が見える。楽しいのは裏面「いつの日かまたたずねみむ山青き 若杉峠にのこすあしあと」と歌が彫り込んである。作者は「105隊員」とあるだけで、個人名が秘してあるのも奥ゆかしいが建設にはさぞ苦勞も多かったに違いない、大屋から峠を越えれば若桜街道国道29号線にでる。左に名勝音水湖・右



に鳥取県若桜はすぐそこである。

〔宿南 登〕

食の安全・安心と農業

私たちのグループの目標は農場から食卓まで食の安全を確保し、消費者の信頼を得る健全な食生活と環境創造型農業の取り組みです。但馬ではコウノトリを核とした安全安心を重視した農業の取り組みが徐々に広まりつつあります。こうした農業は今までの農業と違い大きなリスクを背負っています。特に、近年各所で「食の安全・安心」が大きく叫ばれていますが、消費者はより安価で見た目もきれいな物に関心が持たれています。私たちが進めている消費者の視点に立った農業を消費者に信頼、理解してもらうには、理屈でわかっている現実も現実を極めます。

そこで、今まで全くといっていい程なされていなかった消費者とのコミュニケーションの一方法として、幼児・児童向けの紙芝居の作製を実施します。若い消費者代表のお父さん、お母さんに子どもたちと一緒に見ていただき『食の安全・安心』を大いに考え、将来ある子どもたちの健全な食生活を進めたいものです。

遠くて長い活動ですが、次期の夢テーブルでぜひ引き続けていただけのをお願いいたします。

[小谷 愛子]



ふるさと音楽祭「たじまのうたまつり」

JR豊岡駅で“こうのとり”の歌が流れています!

列車の発着時に、ふるさとをイメージした歌がプラットフォームに流れたら素敵だろうなあと考えていたのは私たちだけではないと思います。ふるさとの駅で、旅立つ人をやさしく見送り、帰ってきた友を温かく迎える試みを“こうのとり”の歌”で提案したところ、JR西日本さんのご厚意で昨年12月から実現しました。

列車の到着時は「約束の空へ」(作詞・曲:大西しんぎょう)、出発時には「輝いて!こうのとり」(作詞・曲:西田武生/補作詞:中田みつこ/編曲:多田高弘)の2曲が流れます。もちろん、構内のアナウンスの妨げにならないようにメロディーだけですが、楽譜や歌詞を紹介した資料も構内に置かせていただいたので、歌の好きな方は歌ってみてください。

私たちは“たじまのうた”を、いろんな機会に活かせるように、これからも取り組んでいきたいと思っています。

[沖野 芳郎]



環境にやさしい生活-5R生活の推進

ごみ問題、地球温暖化問題とこれからの「地球」を考える上で重要、かつ切実な課題を掲げマイ・バッグキャンペーンから取り組みました。地元大型店舗のご協力を得て、豊岡、和田山、日高で人気キャラクター、はばタンも参加して街頭宣伝活動を行いました。

資源の無駄使いをやめ自然、環境を守る必要性は、頭の中では理解されてはいるものの、快適、便利な生活に慣れすぎてしまった日本人の生活習慣を変えるには、まだまだ先は遠いようですが、諦め、絶望するわけにもまいりません。私たち一人ひとりにも但馬、日本、地球の未来への責任があると考えます。

熱意のあるメンバーの力を十分に発揮することなく2年の任期が過ぎたこと、リーダーとしてまことに申し訳なく、弁解の余地もございません。ただ私たちの掲げたテーマの切実さは今後ますます高まるのは明白で、めげずにはおれません。今後の夢テーブル委員会の中で、どのような形で再構築していけるのか考えていかなければと思っております。

[稲葉 康介]



森・川・海の再生

但馬の環境は守られている。

「自然環境は守られている」「自慢したい風景がある」「森、山に入ったことのある人」「ゴミの分別やリサイクルに協力している」「電気のみだ遣いなど環境に配慮している」

「食べ物や飲み物は安心」これらの項目は、「美しい兵庫指標・県民意識調査」の地域別で但馬が1位となった項目である。

地域環境に関心を持ち、子・孫に但馬の環境を伝えようと努力している住民が県下で一番多いということになるのでは。

森・川・海の再生という大それたテーマを掲げる本グループもメンバー全員がそれぞれ独自のグループに属し活動している。対象は山、森、川、海、花と見事にばらつき、地域も手法もメンバーも異なることから、この2年、お互いの活動に参加し合うことで学び合ってきた。いずれも、住民の自主的発想から生まれ、活動されている団体であり、肩を張らずに、「遊び・素人」認識の活動である。それが、地域住民を、子供を地域自然に足を、手を、目を向けさせている。たまたま集まった我々だけでも森川海に関して7団体もあることから、但馬にはそのような組織は本当に多数にのぼるだろう。

これらの活動が結実していると理解して、喜びあいたい。

[曾我 一作]



地域の助け合いネットワークづくり

夢つうしん第2号の中に、14年度に但馬5地区でエコマネーのモデル事業が実施されたことが紹介され、夢テーブル委員会においても「高齢者・障害者・青少年のトライアングル・ネットワーク」を実現するためセミナーを開催している。

第3期の私達のグループも、17年度は地域通貨について研鑽を深めるために学習会を開いた。

その後、紆余曲折を経て今一度原点に戻り、身近な助け合いのムードを呼び起こすため、心がジーンとして相手への思いやりが感じられる「心が温まる話」を募集してはという提案があり現在進行形である。

また、「障害者の生活課題に取り組むことが住み良い町づくりにつながる」との視点から、豊岡にある援護寮「ほおずき寮」を利用されている方、地域で自立されている知的障害者の方、遠隔地から但馬に嫁いで来られた全盲の老婦人の悩みなどをお聞きし意見交換するなかで、改めてこのグループの課題の奥深さを痛感した。

議論百出課題が多岐に渡り山積するなかで、確かなのが絞り切れなかったが、一定の方向性は見えてきたので引き続き来期に期待したい。

[木下 幹夫]



地域防災力の向上

昨年春頃から平成16年の台風23号で大きな被害を受けた豊岡・西花園区長、日高町・赤崎と浅倉区長、出石町・鳥居区長と但東町・奥赤区長、和田山町・竹ノ内副区長と養父市・宿南代表区長(どなたも台風当時)さん方からお話を「聴く会」や円山川、出石川を「視る会」をグループで行いました。

昨秋、メンバーの先輩の谷口さんが突然病気で亡くなりました。川を視る会でも元気で頑張っておられたのに、本当に残念です。ご冥福をお祈りします。

区長さん方から聴く会、川を視る会から学んだことは数多く、共通していえることは、自らが災害から身を守る。そして、災害弱者に周りのものが手を差し伸べてあげること。災害の起こるおそれのある場所は、普段から行政や地区の古老に話を聞いて調べておき、その対応を学習しておくことが肝要であると考え、聴く会、視る会で学んだ事を後世に伝えていかなければならないと痛感しました。

[高倉 清]



まちづくり人フォーラムの活動から

平成15年11月「第4回まちづくり人フォーラム」を但馬長寿の郷で開催。その中で豊岡市日高町の水田喜太郎さん(90歳)が珍木「入玉空ケヤキ」について発表、そのことが新聞にも掲載され話題となった。



その縁で長寿の郷に記念植樹し文教府にも紹介、16年度文教府から県ふるさと文化賞に推薦され同賞を受賞。

17年には三田市での全国植樹コンクールで「農林水産大臣賞」も受賞された。

フォーラムの直後に南但馬の玄関口に植樹してはとの話が持ち上がり、昨年11月「道の駅・但馬のまほろば」に同期生・県民局・朝来市の関係者と植樹した。

私たちの活動から貴重な但馬の人財を発掘できたことは大変喜ばしい限りである。

【森本 昌】

障害者の自立支援について

私は長年、城崎町手をつなぐ育成会長、県の相談員などを務めるほか、その間放送局のリポーターとして数々のビデオ撮影を行い放映されたりもしました。

その後、第2期のとき台風23号災害により機材が流出し、再起不能とされているなか入院中の病室から第3期の夢テーブル委員に応募して今日に至っています。

現在、小規模作業所のロマンハウスに通所しており、NPO法人化に向けて進んでいます。支援費自己負担が重く感じます。

全国の障害者が運動を行い、マスコミも取り上げる様になりましたが、障害者一人一人が人間らしく暮らせる社会を目指すために皆様のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

【岩本 保雄】

ナメクジ一匹に驚かないで下さい

野菜からナメクジが出てきたら「返品」の考えは変わらないようです。朝市でも見た目に美しいものから売れて行くのが現実です。

ナメクジ一匹、虫食い穴一カ所も許せない消費者の清潔基準に合わせるためには、必要以上の農薬を使わねばなりません。自分の口に入れたくない位の量、回数にならざるを得ないのです。生育後期の結球直前だけ考えても2回散布が必要です。結球後では効果がありませんから、濃度を高め、たっぷり散布します。卵には効きませんから孵化後にもう一度散布します。ナス、キュウリは果実に直接農薬が付着します。

無農薬・有機栽培では、ミズが沢山いてナメクジもいっぱい居ます。ナメクジが多いことは美味しさのバロメーターと言ってもよいのです。

「ナメクジ一匹、二匹に驚かないで下さい」

安全・安心で美味しい野菜づくりを目指す農家の切なる願いです。

【三谷 重信】

「但馬夢テーブル倶楽部」OBの活動紹介

私たちは、夢テーブル委員から巣立った今も活発に活動しています。

静思堂に演劇来たる!!

2006年の暮れにうれしいニュースがとびこんできました。

栃木県的那須にあるアコアという劇団の演出家鈴木史朗さんより、静思堂で一人芝居をやりたいとのこと。演目はレイ・ブラットベリ作「霧笛-共生の彼方へ」さっそく静思堂へお願いに行ったら、3月10日と11日にOKがとれました。関東を中心に活躍されているので、関西では今回が初演とのこと、とりあえず我が家を現地の連絡先と決めて、教育委員会にも後援をお願いしました。まもなくポスター、チラシが届くとのこと。

一人芝居といえば白石加代子さんの百物語が連想できますが、迫力と雰囲気は似ています。鈴木さん35歳。但馬の若い人に是非観てほしいと思います。(問い合わせ先 小畑宏明 電話0796-52-5182)

【小畑 ひろゑ】

但馬を映像で発信する会

第2期夢テーブル委員会の「映像で但馬を発信」グループは、一昨年4月に「但馬を映像で発信する会」として独立しました。現在は、全国的にも注目されている「住民ディレクター」活動に取り組み、養成講座を開催しています。住民ディレクターは、映像のプロではない普通の住民が、テレビの手法を利用して自分自身の生き方や地域、社会のあり方を考え、表現していく活動です。自分の「伝えたいこと」を明確にしていく番組作りのプロセスを通じて個人の企画力が養われ、ディレクターが力を合わせることで地域の総合力もアップするという一石何鳥にもなる活動で、まさに「まちづくりの最終兵器」といえます。

この手法は、但馬各地で活動しているグループが発信し、連携しあう絶好のツールにもなると思います。これからの講座を開いていきますので、ぜひ一度ご参加ください。

これまでの収録番組がこちらからご覧になれます。<http://www.dmtj.net/jd/>

◎「但馬を映像で発信する会」は第2期但馬夢テーブル委員会の活動から設立された団体です。【木村 尚子】



動画編集に日々奮闘

但馬夢テーブル委員会同期生で初めて情報発信の方法について語り合いました。

「但馬を映像で発信する会」では数回の講座を開催し、皆さん熱心に講座に参加されています。私は、気が向いたとき時々参加、途中下車しながらも兎に角一年が過ぎました。

一昨年から但馬文教府の「みてやま学園大学院」とやらに途中乗車、昨年は「卒業研究論文の作成」のため5人グループで「但馬探訪」を企画し、但馬一円を車で20日間くらい周り、動画に収めてDVDに編集、旅行に行かない日はほとんど朝から晩まで投入、数十枚を作製しました。

これも「但馬を映像で発信する会」のグループの皆さんのお陰です。老骨にムチ打ち、但馬で最高齢者のITホームページ作家、動画編集作家を目指して頑張っています。

【藤原文男】

但馬民俗芸能応援隊

平成18年11月26日、但馬長寿の郷・郷ホールにて、但馬各地で民俗芸能の伝承に取り組む子どもたちが一同に集まり「第2回但馬子ども民俗芸能祭」を開催、7団体が参加しました。

午前中は出演者、スタッフの交流会。餅つき、焼き芋、八鹿豚を使った豚汁、但馬農業高校生による赤米のかす汁、シャボン玉づくりなどを楽しみました。午後は但馬農高3年生が、司会・進行を担当、今年初出演の宿南子ども相撲は幼児から6年生が参加し化粧回しをつけて土俵を一周。かわいい姿に大きな拍手が送られました。

但馬には数多くの貴重な民俗芸能があります。地域文化の象徴であるこれらを守り継承していくことは地域への愛情と誇りを育むと確信しています。皆様の温かいご声援を心よりお願い致します。

◎「但馬民俗芸能応援隊」は第1期・第2期但馬夢テーブル委員会の活動から設立された団体です。

【仁木 鏡子】



お知らせ

■住民ディレクター講座

【日時】平成19年2月18日(日) 10:00~16:30
【場所】豊岡市民プラザ(アイティ7階)市民活動室C
【内容】10:00~12:00 住民ディレクター・ミニ講座
13:00~16:30 実践講座「フォーラムを公開収録しよう」
(13:30~15:30「ミニフォーラム」への参加も歓迎します。)
【お問い合わせ先】電話：080-5340-3012(木村)
メール：kimuradayo@nifty.com

■但馬地域夢会議

【日時】平成19年3月11日(日) 13:30~16:00
【場所】但馬長寿の郷・郷ホール
【テーマ】「つなげよう!ひろげよう!活動の輪」~但馬の地域資源をいかす~
ビジョンの将来像の実現に向けた思いを語り、交流しましょう。
一般住民の方々の参加もお待ちしております。
巨木写真コンテストの入選作品の展示なども行います。
【参加申込み・お問い合わせ先】
但馬夢テーブル委員会事務局(但馬県民局企画調整部地域ビジョン課)

●但馬夢テーブル委員会に関するお問い合わせは下記までご連絡下さい●

〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町7-11 但馬県民局内 但馬夢テーブル委員会事務局(企画調整部地域ビジョン課)
TEL:0796-26-3615 FAX:0796-24-7490 URL:<http://web.pref.hyogo.jp/area/tajima/vision.html>